令和４年度大牟田市総合教育会議　会議録

◆ 日　　時　令和４年 10 月 26 日（水）14 時 00 分～14 時 55 分
◆ 場　　所　大牟田市役所本館３階　302 会議室（経営会議室）
◆ 出 席 者
関市長、谷本教育長、山本委員、嶋田委員、東委員、木場委員
教育施策関係部署
（企画総務部）森部長、伊豫副部長
（市民協働部）大倉野副部長
（教育委員会事務局）　平河教育監、桑原事務局長、総務課 平野課長、教育みらい創造室 松葉主査、宮崎指導主事、学校再編推進室 中野室長、学校教育課 小宮課長、指導室 杉野室長、学務課 内野副課長、木下給食担当課長
（事務局：企画総務部総合政策課）新田課長、松尾副課長、髙守主査、小山
・傍　聴　者　２名

◆ 議　事
[議題]
１．大牟田市小中一貫教育制度の取組について
事務局より説明後、協議。

委員　　まず、昨年度の総合教育会議の際に申し上げた教育委員からの要望に対応していただいたことに御礼を申し上げたい。小中一貫教育制度に係る地域学校協働活動推進委員、常駐のスクールソーシャルワーカー（SSW）の配置及び特別支援教育支援員の増員、また、コロナ禍におけるスクール・サポート・スタッフの配置、学校設備等の充実に係る予算面の配慮や子どもたちが文化芸術に接する体験活動の実施など、着実に取り組んでいただいたことに感謝する。
今年の要望事項等について、各委員から話したい。

委員　　小中一貫教育制度の導入について、一昨年度の総合教育会議で導入についてお願いをし、昨年度には方針案が示され、今年度はモデル校である宮原中での検証が進められている。令和５年度からの本格導入に向けて、着実に成果が上がっていると報告を受けている。精力的に取り組んでいただいていることに感謝したい。宮原中はこれまで ESD の取組みを通して培われてきた地域とのつながりに加えて、この小中一貫教育制度を導入することで、地域学校協働活動推進委員が配置され、地域とともにある学校づくりが進んでいると思う。また、常駐の SSW の配置で中１ギャップの解消や不登校児童生徒の減少に着実な成果が見られており、この２つの配置は大きな要因になっている。全中学校区にこの配置ができるよう要望したい。

令和５年度からは７年度からの本格導入に向けて、宅峰中、松原中でも準備が進められる予定である。やはりそこにおいても SSW の配置は欠かせないものであり、派遣型で数校を掛け持ちする形ではなく、宮原中のような配置型で、１つの学校に腰を据えて、その校区に密着することで格段にその効果は高まるものと考える。SSW の人材確保が難しいことは理解しているが、今後、導入が予定されている校区に配置する予定の方も含め、早期の人材確保のために前倒しでの採用も念頭に置いて検討してほしい。

保護者や担任の先生方の声で、各学校のスクールカウンセラーの配置時間が少なく、困った時にすぐ話を聞いてもらえないという現状がある。宮原中では常勤の SSW がまず相談の体制づくりを行って、それに伴う生徒のカウンセリングをスクールカウンセラーがスムーズに行うことで効果があがっていると聞く。子どもたちにとって、家を一歩出ると、学校はもう一つのおうちになる。そこが安心して過ごせる場所であり、心を開いて話せる場所であり、自分の存在価値を見いだせる場所であることは、とても大切なことである。もう一つのおうちである学校で、スクールカウンセラーのカウンセリングを受けることで、不登校だけでなく、複雑な問題の未然防止になるのではないかと思うので、スクールカウンセラーの確保についても強く要望したい。

小中一貫教育制度の中で、義務教育学校についても話が出ている。今後教育委員も学びを深め、真摯な言葉で建設的な議論をしたい。何よりも子どもたちのためにということを１番に考えていきたい。

市長　　宮原中ではモデル事業が進められており、いろいろ工夫しながら取り組んでおられる。中学校に上がる小学６年生も不安かもしれないが、中学校に上がって２ヶ月ぐらいで、出身校に戻って小学生と話すというのは、新中学１年生にとってもほっとするのではないか。大きく環境が変化した際に、自分が長く通った学校で後輩たちと交流できることは、新１年生にとってとても良いことではないか。推進委員や SSW がうまく機能して、この仕組みづくりに役立っていると聞いている。この成果を踏まえて、これからの宅峰中、松原中にも繋いでいく必要があるのではないか。将来的に６つの中学校区それぞれに常駐の SSW を置くという方向性は必要だと考える。教育委員会および教育委員会事務局と連携し、話を聞きながら人材確保をしていく中でいろいろな工夫をしながら、予算措置も含めて考えていきたい。

SSW が時間的に限られている件については、県から配置を受けているためだと聞いた。先日、県教育委員会の吉田教育長の所に行って大牟田への配慮のお願いをしたところ。

義務教育学校については、今後教育委員会で建設的な議論がなされるとのことなので、その結果を踏まえ、予算措置も踏まえて検討したい。

委員　　コロナが少しずつおさまり、少しずつ行事も実施できるようになり、運動会も縮小されながらも体育大会として、やり遂げられたことに喜びを感じる。そして、今まで運動会や球技大会、リレー大会など体験ができなかった6年生が、初めて最上級生としての姿を見せられたことは、すばらしいこと。父兄も涙を流しながら見学した。低学年も初めての運動会がこのような形で開催され、これから先もいろんなことができるようになればいい。市長のまちづくり出前授業については、行事が少なくなっている中で、6年生が市長との交流の中で大牟田の偉大さや、こういうところが大事だということを聴いてすごく喜んでいて、後々まで、未だにこういうことを市長さんから聴いたよとか、こういうところに行けたよという話を聞けるようになって、市長とたくさんの交流ができたことに感謝したい。先日、中学校の吹奏楽部が、日本フィルを間近に聞くことができて良かったという声を聞いている。そのこともとおして、教育環境の充実についてたくさん考えなければいけないことがあると感じた。

トイレの洋式化や多目的トイレの整備、特別教室への計画的な空調設備の設置に取り組んでいただいていることで、子どもたちがより良い学校生活を安心・安全に送れるようになった。コロナ禍の感染対策として、トイレの手洗いが自動で水が出るようになったことと、蛇口の取り替え等に対応いただいたことに感謝している。学校施設については、適宜、補修などの対応がなされているが、施設の老朽化だけでなく、近年の大雨の影響による被害も続けて発生している。児童が安心安全に学校生活を送るための環境整備は今後も重要だと考える。雨漏りなど学校施設の経年変化による補修だけでなく、近年の著しい気候の変化により異常発達した学校の樹木の剪定や伐採にも引き続きご配慮いただきたい。また、学校施設のZEB化等について、質問が議会でも取り上げられたと聞いている。これからは太陽光発電による省エネや、燃料電池などによる蓄エネ、電力消費の省エネ、エネルギー収支プラスマイナスゼロからといった視点から、そういうものが非常に重要だと考えられるため、再編に伴う学校施設の設備においても、脱炭素化を進めていただきたい。

特別支援教育支援員の配置については、年々支援が必要な児童生徒が増加している傾向にある。情緒的な安定や安全面の確保に向けた教育だけでなく、担任教員との学校の落ち着きにも影響を与える。保護者からは、令和4年度は予算の増額による体制の強化が図られ、感謝される一方、令和3年から4年にかけて10名程度の増員の配慮もいただいているが、なおも支援員の不足により、児童生徒への支援が大変な状況と聞いている。これから更なる人材確保、増員配置が可能となるようご配慮を願いたい。子どもたちに楽しい学校教育を送っていただきたいと思っている。

市長　　やっと、行事が少しずつではあるが開催できるようになり、子どもたちにとって貴重な体験ができるようになったことは大変喜ばしいこと。6 年生は、4 年生時からこれまで 3 年間できなくて、やっと最高学年になったときに自分たちがリードして実施することができたことは良かったし、低学年で見ると、3 年生においてはこれまで一度も実施できていなかった。やはり、先生方の努力によって感染対策をしてくださったこともあるし、引き続き、コロナが完全収束するまで、感染対策は続けていく必要がある。子どもたちのワクチン接種については不安な点もあると思うが、ぜひ検討いただき、うちの子どもは接種してもいいのではないかという考えるご家庭があれば、できるだけそういったことも考えてもらいたいと思う。施設整備については、数々御礼をいただいたが、これは現場の先生や教育委員会事務局がしっかり考えていただいて、予算措置をしていただき、衛生的で安全な学校生活をということで、この間取り組んできている。その結果、進まなかったものが進むことになった面もあるため、そういった面からは良かった。特別支援教育については、体制を作っていくことはとても大事なこと。ESD や SDGs を進めて行く中で、どのお子さんも安心して状況に応じて教育を受けられる、そういった体制を作っていくことはとても大事なことである。専任の指導主事を教育委員会に一人配置することを支援したが、人員も増やしてきている。これで十分かという部分もあるが、教育委員会からも話を聞きながら引き続き対応していきたい。特別支援学校のお子さんについては、体温調整が難しいお子さんもいると聞いている。今設計中だが、体育館も空調設備を設置することとした。議会で予算を認めていただき、来年度中には、特別支援学校には体育館にも空調が入る。財政状況もあるが引き続き進めてまいりたいと思う。

委員　　新型コロナウイルス感染症対策について御礼とお願いを申し上げたい。新型コロナウイルスは、変異を繰り返しており、特にオミクロン株になってからは、弱毒化したものの感染力が強く、若い世代を中心に感染が拡大し、小中学生の感染から家庭内感染へという問題があった。それが社会にも影響を及ぼす状態が続いている。このようなコロナ禍において、スクール・サポート・スタッフや学習指導員の配置、トイレの洋式化、水道蛇口のアームレバー式への取り替えなど対応をしていただいている。また、日常的な学校現場での感染対策や家庭への呼びかけや、インターネットを使った授業の確立など、対応をしっかりしていただいて、大牟田の学校がコロナ感染に対してきちんと対応していただいていることに感謝したい。学校現場の感染対策については、重要なものと考えられるが、体験活動をはじめとする教育活動については、工夫しながらできる限り進めていくことが子どもたちにとって大切

なことである。社会活動や経済活動の活性化が進んでおり、入国制限の大幅な緩和により、冬には新型コロナ第８波やインフルエンザとの同時流行も懸念される。今後、コロナの収束は難しいが、感染対策の重要性は続いていくもの。スクール・サポート・スタッフや学習指導員の配置など児童生徒が安心して学べる環境の確保に向けて、引き続き予算の配慮をお願いしたい。

もう一つは、不登校について。不登校への対応は、子どもたちの将来にとっても大切な課題である。不登校の原因は多種多様である。文科省は７つのタイプに分けている。同じタイプであっても一人ひとり状況が全く違ってくるため、一人ひとり対応が異なってくる。また、不登校には経過があり、予備期から経過観察期に至るまで６段階ある。それぞれの時期に応じて対応の仕方も異なる。こうして一人ひとりに適切に対応していくには専門的な知識が必要。チームとして密に連携していく必要がある。チームとしては学校の管理職、担任の先生、養護の先生、家庭、スクールカウンセラー、必要に応じて地域や企業、行政、学校の専門員など協力をお願いする場面もある。そうした多くの人たちの関わりが必要であるため、SSW がコーディネーターとして重要な働きを担っていかないと、なかなか解決にはつながらない。個々のケースに対して、まずアセスメントをやって、対応策を練り、それから関わり方、役割分担を決めて、それを実践し、それを総括して、段階に応じて繰り返し行っていかなければならない。そのように非常に長期に渡って膨大な時間と労力が必要となってくる。このような取組みができてくると、学校メンバーでも適切な対応が自然にできてくる。早期での気づきもできてくる。先生方の心の負担軽減、業務負担の軽減にもつながり、いわゆる好循環を生むことになる。確実に効果が期待できる。しかし、SSW が足りていないのが現状である。各中学校区に一人という計画はあるが、少しでも前倒しによる採用、増員をお願いしたい。子どもたちの将来的な社会的自立に向けた支援をお願いしたい。

市長　　新型コロナ対策については、これまでもインターネットによる教育が継続できる仕組みづくり（一人一台のタブレット端末、ルーターの貸し出し）に加え、学校現場ではスクール・サポート・スタッフなどの人員の体制整備等を行ってきた。また、学校内においても、できるだけ衛生的な環境を作れるよう施設整備も行ってきた。そのような中、オミクロン株は家庭内感染等を通して子どもたちにも感染が広がった。現状はやっと少しずつ落ち着いてきている。また、何か工夫をしながら体験活動を継続することは大切なことだと思う。子どもたちがそこで感動し、成長していくそのような場を作っていく。学校現場の先生方がさまざまな工夫をし、やっと今体験活動を再び行えるようになってきている。これまでの工夫を継続しながら、感染対策と体験活動を両立させていくことが大事だと私も思う。それに必要な支援があれ

ば、市長部局、市長としても支援していきたい。

不登校については、様々なケースがあり、それぞれのケースに応じて専門家に入ってもらい、継続的に不登校の子ども、不登校になるおそれのある子どもに対し支援をしていくことは大事なこと。そのコーディネート役であるSSWやスクールカウンセラーなどの体制充実は欠かせないことである。予算をつけるということもやっていくが、やはりしっかりした素晴らしい方にそのような役割を担っていただくということも大きなポイントになると考える。教育委員会事務局も私自身も努力するが、東先生も人脈等もお持ちかと思うので、お力をお貸しいただきたいと思う。みなさんで人材を確保し、子どもたちのために、そのような体制を作っていけるよう私も努力していきたいと考える。

委員　昨年、GIGAスクール構想に関するお願いをした。さっそく今年度はICT支援員を採用していただいた。パソコンやタブレット等の使い方を先生方に教えていただいている。現場の先生方からも非常に助かっている、本当に良かったという声を聞いている。次に、子どもたちが本物の芸術に触れる機会を設けていただくようにとお願いした。現在、全小学校の6年生に対し世界遺産や近代化産業遺産を見学するバス見学会を実施していただいている。予定では全員で950名の子どもたちが参加することになる。子どもたちが間近に見て、感動するとともに郷土愛の醸成になればと思っている。また、子どもの文化芸術体験支援事業として、劇団四季のキャッツを観に行っている。4～6年生の40名が参加。これもまたみんな驚いたのではないか。劇団のミュージカルを間近に見ることは素晴らしいことである。大牟田市と日本フィルハーモニーの協定の締結については、音楽を通した魅力あふれるまちづくり推進協定の締結ということで、新聞などのメディアでも取り上げられた。新聞では、市長が「次世代を担う子どもの育成に力を入れたい。今後も素晴らしい音楽を提供され、子どもの育成にご協力を」と記事にあった。このように子どもたちのことを思っておられることをうれしく思う。その時記念演奏があったが、その演奏を聴いた橘中学校の生徒たちのコメントに「表現力豊かなスケールの大きい音楽に感動した」「目標が一つ増えた。明日から楽しみ。」とあった。やはり本物を聴いて感動することが、この生徒にとって、これからの人生に大きな影響を与えたのではないか。

感動すると言えば、R5年度に完成する総合体育館については、バレーボールやバスケットボールなどプロスポーツを呼んでいただき、小中学生に選手たちの試合を見せていただきたい。プロの選手達のスピードやそのぶつかる音を間近に見たり、聞いたりすることで子どもたちは感動するのではないか。いろいろとご支援いただき感謝している。今年のお願いは、先生方の働き方改革についてである。先生方がおっしゃるには、働き方改革の1丁目1

番地は中学校の部活動である。現職の先生方の超過勤務の中で、土日の中学校の部活動に出て行くことは、負担増になっている。休日に先生方が部活動に携わることのない環境の構築のために、部活動指導員の配置を教育委員からもぜひお願いしたい。

市長　　ICT 支援員については、一人一台のタブレットについては導入されたが、いかに活用して、子どもたちが楽しく、また、わかりやすい授業を作っていただくことについては、先生方のお力を借りないといけない部分である。その中で若手の先生たちが活躍していると聞いているが、全ての先生が有効にタブレットを活用していけるよう支援をしていく必要があるため、ICT 支援員の設置を実施している。現場の先生たちが役立っているということであれば継続していきたい。バス見学会については、世界遺産の勉強をするだけでなく、大牟田の歴史を知る、自分のふるさとに誇りを持つことにつながる。出前授業では、このような歴史の中で、今も世界で活躍する化学産業やその他のものづくりの企業が大牟田に根付いていること、これからデジタルという観点で産業を興していくことや、もしかしたらその先もあるかもしれないと話している。誇りを持ちながらこれからの大牟田を考えるきっかけになればいい。キャッツの話については、私も観たことがある。内容については子どもにはわかりにくい部分もあるかもしれないが、踊りはおもしろいのではないか。日本フィルハーモニーも含め、本物を見ることは、大きく感性が育つチャンスになる。関係部局と一緒に継続してやっていきたい。部活動については、がんばっていただいている先生もいる。一方で自分が専門でない分野でやむなく対応しているという現実もある。そういった部分は、民間からの人材を活用する指導員という新しい制度を使って、先生だけでなく部活動が成り立っていくというのが必要。来年度、教育委員会では試行的に導入すると聞いている。私も一緒になって、現場が良くなっていく中で子どもたちも成長できる、そのような仕組みづくりになっていくように一緒に実施していきたい。

委員　　「大牟田の教育」（冊子）について、福岡教育大学の石丸先生からの意見書の中で、「大牟田市には、市民、企業など多くの主体が参画し、持続可能性を追求していく土壌があるように思う」という一文をいただいた。また、令和 2 年度の評価のときは、「大牟田市における ESD は、持続可能な大牟田市の実現のためにある」という言葉もいただいた。大牟田の小中学校の子どもたちは大牟田の ESD の学びを通して、しっかり力をつけている。小さかった苗が大きく育つよう、大牟田の教育によって、未来を拓く人が育ち、大牟田の土壌で花開くことができる、そんな大牟田になることは素晴らしい。市長がおっしゃっている、これからの未来像に繋がっていくのではないかと思

う。

大牟田の教育から始まったESD/SDGsの学びや取組みを行政全体、市民全体でバックアップしていただいていることに御礼を申し上げたい。

市長　先日、大牟田地方ユネスコ協会の設立総会に行った。ESDの中で育ってきた子どもたちが、大学生、もしくは青年になって何人か来てくれていた。やはりそういう姿を見ると、先進的に取り組んできたESDの取組みがさまざまな所で花開いたのではないかと思う。引き続き、学校が取り組もうとしているさまざまな課題については、一緒に取り組んでいくことは大事であるし、一緒に取り組んでいきたいと思う。

以上（14:55）終了